シリーズ 探訪 わが町文化財 その130

神谷後峰遺跡（船坂地区）

田殿丹生神社が鎮座する背後の山は、白山と呼ばれています。白山は、古代から神が降臨すると考えられていた原始信仰の対象であり、その周辺は長らく聖地として崇められてきました。白山の東側の谷は、神谷と呼ばれており、かつてこの場所には神谷山最勝寺という大きな寺院が存在していました。

江戸時代の史料によると、最勝寺は鳥羽院の時代（1129～1156年）に天野（かつらぎ町）で学んだ真言僧の玄蔵が、七堂伽藍を建てたことに始まると記されています。最勝寺が存在したと推定される場所からは、平安時代後期から室町時代ごろにかけての瓦などが採集されており、その記録を裏付けています。最勝寺は、有田川下流域における聖地として信仰されていた場所に高野山が真言宗の拠点寺院として築いたと考えられています。

明恵上人は、最勝寺に数度滞在しています。上人は、最勝寺が世俗から離れ、聖教が備えられた修行と学問に適した魅力的な場所であったと考えられていたことが、当時の記録からうかがえます。

明恵上人は、元久元年（1204年）にも神谷に入っていますが、この時は修学のためではなく、事情が異なっていたようです。師の文覚が対馬へ島流しとなり、明恵上人の祖父であった湯浅宗重以来、文覚を支えていた湯浅一族にも飛び火し、有田郡内の多くの地頭職（荘園の現地支配をする職）を失うという状況に陥りました。上人は、その混乱を回復するために、糸野から最勝寺の裏山に草庵を建てて移り、華厳経の転読を始め、大仏頂法（息災を祈る法）などの加持祈祷を行いました。

また、明恵上人が最勝寺に滞在していた頃、有田郡に大旱魃が襲い、上人は2枚の龍の図を描き、1枚を海に入れ、1枚を掲げて雨乞いの祈祷を行いました。3日目には最勝寺の上に雲が現れて大雨が降り注ぎ、人々は上人をたたえました。この時、ある僧は最勝寺から2匹の龍が天に昇り、1匹は雨を降らし、もう1匹が洪水を止める夢を見たと言われています。明恵上人が湯浅一族のために祈りをささげた場所は、白山の西側の船坂にあり、石造の卒塔婆が建てられて、神谷後峰遺跡として国の史跡に指定されています。

●〒6430021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL https://www.town.aridagawa.lg.jp